

# 矢作川流域圏懇談会「第7回海部会WG」会議開催報告

## 1. 実施概要

### (1) 実施概要

○実施日時：平成24年12月11日(火)  
15:00～17:00

○開催場所：西尾市文化会館

○参加者：25名（事務局含む）

### (2) 内容

#### 【プログラム】

1. 開 会 青木座長挨拶
2. 「第6回 海部会WG」開催概要報告
3. 議題  
(1) 課題の今後の対応について  
(2) その他の課題の取扱いについて  
(3) 次年度以降の活動方針、流域連携テーマについて
4. 閉 会



開催風景（1）



開催風景（2）

## 2. 主な会議内容

第7回 地域部会WGで話し合われた主な内容は、以下のとおり。

### (1) 個別課題の今後の活動方針について

#### 1) 干潟再生について

- ・ 今後は、現地調査を含め土砂の問題に関する理解を深めることとなった。
- ・ 具体的には、海の人達も、上流のダムの堆砂状況や山の状況などを現地で確認するバスツアーなどで土砂の状況を確認することや、河口干潟や人工干潟の対比、西浦などの干潟再生事例箇所などの調査地点の提案があった。

### (2) 流域連携テーマについて

- ・ 「ごみ、流木調査」を協力していくこと、「ヨシ原再生を含む干潟再生」を川部会と連携していくこと、「土砂の問題」の各地域での課題認識のすり合わせや現地視察等での情報共有を進める3点を連携のテーマとして提案するものとした。
- ・ 遡上生物（具体的にはウナギ）の生息環境については、古川での魚道整備が計画中であることなど、改善に向けた取組みの状況を収集しつつ勉強が必要であることから、今後の課題とし連携テーマとはしない。

## ■ 意見交換（・ ご意見、提案 ➤ 回答）

### （1）干潟再生について

- ・ 干潟再生の箇所については、試験所さんの方では調査をされている？また、そうした現場を見に行くことは可能か？（井上）
  - 全てではなくて代表した所、ダムの砂が入った所などの調査を遂行しています。現地を調査する場所としては、水深がやはり 3m、4m の所なので、直接見ることは干潮時だろうが難しい。（蒲原）
- ・ 三河港湾さんに協力して頂ければ行けますか？（事務局）
  - 水上から見ただけじゃ何もわからなくて、道具を使って砂を取り上げて見ることは可能ですが水深が深すぎて干潮時でも入れないですね。（蒲原）
  - ダム砂に限らなければ、先ほどご紹介があったように西浦の干潟、そういう所ですと干潮時でも入れる場所はある。大勢の方に見て頂くというのはやはりダムとは限らず浅い所に入って見る企画の方が良い。（蒲原）
- ・ 海にダムの砂を持っていったらどうなるかという現場を見るのは、プロでないとできない。ダム関係の再生箇所は県の方の水産試験所を何回か調査しているデータを見させて頂くことでいいと思う。（鈴木）
- ・ それよりも、海の人達がダムの現場に行きどの位どういう砂が上流に堆砂しており、そういった砂をどういう風にしようとしているのかということの説明を頂きながら、バスに乗って現地で見るといった方が良くと思う。（鈴木）
- ・ 現在は、周辺の例えば仮設道路だとかゲートボール場だとかあとは山の溪谷を少し埋めて分厚くすることや、建設材料として事業者に取り取ってもらうなど、様ざま土砂の処分先を検討されているようだが、あまり砂が生きる使い方なのかという点では検討の余地がある。（長井）
  - 民間ベースでうまく回せると良いが…。事例としても建設資材としては砂利採取業者が取って、一応お金を生み出しているけど、それを一部を例えば 10%分は海へ持ってこいだという話はなかなかやっていない。民間がもうちょっとそのへんもやれないのかという議論をちょっとしていたことがあったみたいですけど、やはり民間ベースに回すのは難しい。（青木）
- ・ 例えば神奈川の相模川なんかでは上流の砂を海まで直接持って行って、海浜造成をやっている。そういう事例はあるのでできないわけではない。（鈴木）
- ・ 堆砂したダムの砂をどういう風に利用するかということについては、はっきり言って今まで全く検討されてきていない。だから、土砂を利用する砂の業者さんが取るということしか念頭にないわけで、それをどこかに砂を有効に使って、例えば環境修復に使おうということは

想定外の話。(鈴木)

- だから改めてどういう風に持っていったら実践できるだろうかということを検討したらどうかという提案だと思う。いい砂があれば、例えば使う所がやればいいのか、それとも下流の人間がお金を出して買ってくるのか、それともダム側の人達が除去するっていうことをもう少し延長してうまく持ってくるのかと、その仕組みをどこかで検討して、それが実現可能なのか不可能なのか、可能にするためには何が障壁なのかっていうことを、いろいろな意見を出し合って検討していったらどうかと思う。(鈴木)
  
- もう 1 つ原点的な話としては、そこまでして海の再生をしなければいけないのという点での価値観が共有されているとは限らないということもある。今、無理して砂を持ってきて高い金出して海に入れるということまでやる必要があるんですかという意見も皆さん言わないけどあるかも知れない。そういう部分について意見を出しあってやるということに、あまり前向きじゃないかも知れないけど、意味があるんじゃないかなと、勉強会をやれば勉強会やったなりにそれだけ意見が出てくるのではないか。(鈴木)
  - 今の砂の問題は、100年で溜まるものが恵南豪雨 1回で溜まってしまったということです。今日、ダム事業者が来ていませんけど、是非、現地を見てもらうのは非常にいいと思います。どんな実態なのかというのは是非見て頂けたらと思います。
  - 現場と見るのと同時に、いくつかの視点を共有することが大事。例えば、「ダムでは、溜まった物は出さなければならないこと」、「下流側に土砂を積んで置いて洪水時に流すが漁業者はいらぬという所もあること」、「利水事業者は急に土砂を出されると困ること」など。また、70数kmの運搬をする位なら違う地域で買った方が安いという単価の議論もあり、今後、長期的にどうするのかという問題であるので、是非、現地に来て見て頂くと良い。(事務局)
  - ダムから持ってくるとするのはなかなか大変だが、昨年度で1万立米位の河道掘削をしていい砂を仮置き場へ移動させ、県で使うという連携を始めている。是非そういう所を見て頂くのもいいのかなと思う。(事務局)
  
- まず、現場でどんな砂なのか、どれくらい溜まっているのか、びっくりする位の量ですからまずそれを見て、これをどう活かすのかどういう風に海に還元できるのか、費用対効果も含めてやはり百聞は一見にしかずですから、それがいいのかなと思います。排砂バイパスも参考までに見れる機会があったら見ておくのもいいのかなという風に思います。あと西浦は見やすいのでいいのではと思います。(國村)
  - 希望があればすぐセットします。日程をこんな頃に行きたいとこの場でご意見あればおっしゃって下さい。(事務局)
  
- 川の中にある干潟と海の中にある干潟が違うことを認識する必要がある。(石田)
- 例えば、海の干潟では、砂が流出すると干潟としては失敗例であるが、一方、川の中にある試験的に施工している干潟はひよっとすると砂が流れていくのが、むしろ当たり前でいいん

じゃないかということもある。また、特に川の中の形態は、ヨシ原とセットで考えていくべきことかと思う。今日、試験所から海で捕るヨシエビが川の中で育つというタイムリーな話題があった。分布の多い所というのはヨシ原のような箇所が多い可能性がある。そういう面からヨシ原だとかあるいは川の中の干潟の効果というものを優先的に考えられる。

- ・ 昨年、一色の人工干潟に行ったが、干潟はあまり見られていないということもあって、人工干潟の例としては西浦の干潟が良い。(石田)
  - 川では砂を入れても一箇所に留まっている砂はほとんど無くどんどん移動している。ただ、削られてしまう所に砂を入れたらすぐに無くなるので洪水が来て削られても又溜まるような形態で自然に溜まるような干潟再生の方法を探っているということです。
  - 是非、海の干潟の所を見に来て頂けるなら、川の所も見せて頂いて、その機能の違いを見て頂くのもいいかもしれない。(事務局)
- ・ 私は川の干潟であれば砂が流されている部分がむしろ重要だと思っている。埋め立てで喪失した河口干潟がどんどん砂が流れてくることで再生するというのは1つ理想的な形だと思う。(石田)
- ・ 本来、川の力で流れてくるところを人間が今いじっている。逆にそれにより生き物が増えているケースもある。だからそういった、特にヨシ原再生をやった所、さかな広場の西側の人工干潟など野鳥など徐々に生き物が増えている感じがするところもあり、やはり観察は絶対必要だと思う。微妙にいい感じの砂浜になっているところもあるので、子供達が水がキレイなので泳げましたとかそういうことも含めて何かいい方法があると、なお良いかと。(高橋)
- ・ 今、子供達は川で遊んで良いか？(鈴木)
  - 矢作川ではライフジャケットを着て遊んでいるところもあります。ただ、相変わらず学校教育では子供達で行くなと言っている。(事務局)
- ・ その他課題の⑤は、話は決まっているんですか？
  - ⑤はですね、これは実は養鰻の関係で、もう少し時間を掛けないと無理かなと思っています。今、矢作古川に吉良古川頭首工に愛知県の農林農地計画課が魚道を設置するというので、魚道検討会を始め、矢作古川もウナギシラスが上まで上がれるルートがいつでもできるということですので、もう少し状況を見て又細かいお話を聞いた上でどうしていくのかという、来年度以降の課題かと思います。(事務局)
- ・ よろしければ1~5についてはこんな形で来年度は進めていくということで、申し訳ありませんけど時間的にもできれば連携の話の方に移って頂けるとありがたいです。(青木)
- ・ 山の現状を見るのに海が鏡です。海を見れば山のどこがどうなんだということが良く分かってくる。だからもっと海から山に向かってもっと言っていると思っている。

- ・ 流域圏懇談会というのは矢作川、山から海までの矢作川という非常に広い範囲で末は三河湾全体と言う風に考えておりますが、そこまでの 100 年の計を立てるという場として初めて設けられた場なんだという風に思っています、場当たりの今やらなければならない事もありながら、いつも 100 年後の姿をやり抜こうという風に思いながら会議を進めています。
- ・ 9 年で終わるんじゃないもうずっと続くんだと、可能性があるとして我々がまた代を次いで、次の世代にまでそれが及ぶかという風に思っている所です。山と海がもっと深く連携したいと思っています。(黒田)
- ・ 土砂を出さないようにするのが山の対策。川を見ても土砂が余り流れない方がいいという見方もあり、海だけ土砂が足りないという状況がゴミなどとは違うのかなという気が前からしています。昔は大量の土砂が山から流出して、自然に海に流れていったという所で自然の環境を作り出すことはもう出来なくなってしまっているので、ちょっと違ったアプローチが必要かも知れないという気がしています。(黒田)
  - 今のお話に関連して基本的な認識としては、今の海の例えばアサリが捕れるだとかは、実は過去の遺産で食いつないでいる状況で、現役世代がそれなりの手を少しでも打っておかないといつか出来るという話ではないという切迫感を個人的には持っています。
  - 海って言うのは基本的にはつぶれるのも早いし、逆に回復するのも早い。それは海自体が大きな 1 つの流れの中でいろいろなものを保管しつつある修復機能を持っているから。だけど修復機能がないのは土砂。土砂だけは何とか人間が手を下さない限りは無理なんです。だから私は土砂管理の問題は難しい問題だからこそ、そういう風に焦点を絞ってやるべきであって、それ以外の問題はそれこそ皆さん、多分次の世代もやっていくと思うんですよ。だけど土砂管理の問題はずっと先送り、先送りして今この状態で、けどもまた先送りだ。それでいいのかねと、こういう感覚を持っているということなんですけど。青木先生もそういった堆砂のご専門だし、私は海の生き物は扱っていてそんな風に思うし、何かそこに、ここに書いてあるような勉強会をやるっていうのはいいんですけど、何かできるのかなという感じを本当に強く持っています。(鈴木)
- ・ 僕らはどっちも見ていますが、海は山に比べるとまだいい。山の人には本当に大変な限界集落でお年寄りばかり互助金がなければ間伐もできないという思いをして何とか水源を守っている。井上さんがよくおっしゃる珪素の問題も山で水が地面をくぐれば珪素の入った水が流れてくると思うけども、まず、山の人々がちゃんと生活できなければいけない。(高橋)
- ・ 例えば山の木をもっとこの下流で使うというようなことも、もちろん食べ物の行き来も含めてそういうことも全部含めての流域圏が必要かと。本当に僕らから見ていると多分山の守り手は金銭的にもよっぽど協力していかないと行かない。山の上でも海の前でもちゃんと人が住めるようなシステムを作らなければいけないかなというのも、土砂も含めて協力関係、山と海の協力関係、健康な協力関係を作るというのも 1 つ大事だと思います。(高橋)
- ・ アサリでは非常にいいけど海苔は最盛期の 10 分の 1。海苔の食害に対して鴨の有害鳥獣駆除

の申請を矢作川河口では一回も出た事がないのに今年初めて出た。10分の1になり目立ちことで、鴨がまだ柔らかい本新芽の海苔を喜んで食べる。そういう何か今までとは違う問題も出ています。(高橋)

- 先程の土砂の問題は、現地調査もやろう、試験的なこともやれないかという話があるんですけど、実は土砂検討委員会が昨年まで動いていまして、その結果を待たないと何とも言えない。といってそこでは土砂管理計画を決定しようとしているのではなく、土砂管理のあるべき姿のひな形を作っているだけで、決してこれで走っていくわけではないので、もうしばらく勉強会の次の段階へはしばらくお待ち頂きたい。
- むしろ干潟だとかそういう所を絡めながら、この流域圏として海としてそれを現地へ見に行ったり、今、土砂がどうなっているかというのを勉強されるのは良い。実際にそれが流れてくれば、干潟はどうなるんだという目で干潟の造成等を念頭に置いて動かれるのはいいのではないかと思います。(事務局)
- 干潟ができることで価値がどれくらい上がるのかを調べているようで、その関係のヒアリングを受けたのですが、それは事務局は関係していませんか。(青木)
  - もしかすると、干潟を作った投資の妥当性というのが問われますので、そういう所で何かやっているかもしれませんが、存じ上げないです。(事務局)
- 今の所、ゴミ調査の関係で川それから山にも連携をお願いするというのが1つ上がって来ています。それと干潟再生の関係で川との連携があります。今の土砂はどうでしょうか、特に連携で投げますか？是非、今度ダムの砂を見に行った時に山の方で紹介して頂いて、良い森、悪い森を見て頂いて。その3点位でよろしいですか？(事務局)
  - ゴミの問題、流木の問題で、海部会で答志島に行っておりますので、あれは継続をしますのでお願いします。(井上)
- あと1点だけ決めて頂きたいのは次年度のワーキングの開催頻度なんですけど、4月、5月、6月で3ヶ月位の会議配置というのは決めることはできますでしょうか？まずは1月に1回位のイメージでよろしいでしょうか？(事務局)
- よろしければ、1月の初旬に座長、副座長、それから市民も参加できる調整会議が1月22日名城サテライトでありますので、今の提案も含めて各部会から出たものを調整・意見交換し、情報共有した上で全体会議にかけるといことで進めたいと思います。それまでにもうちょっと具体化できるようであれば、メールも含めてやらせて頂くといことでよろしいですか。(事務局)
  - 先程の相互交流、ワーキングの回数は、相互交流したい時は両方にカウントしてもらえないと、なかなか出にくい。例えば、山とか川とか海があって、相互をやったらそれは3つの部会がそれぞれ1回ずつワーキングをやったようにカウントして欲しい。(井上)
- ごもつともですね。事務局は切実にわかります。了解しました。(事務局)

以上